

都民劇場 「親と子の京劇鑑賞会 2019」 配付資料

令和元年(2019)6月15日(土) 14時10分より京劇セミナー (約40分間)

15時30分-17時30分 観劇

東京芸術劇場プレイハウス (池袋) にて

講師 加藤 徹 <http://www.isc.meiji.ac.jp/~katotoru/stdnt.html>

★京劇(きょうげき)とは？

海外では「ペキン・オペラ」とも呼ばれる。日本の歌舞伎にあたる中国の伝統音楽劇。

1790年、清(しん)の首都・北京(ぺきん)で誕生した。

昔の京劇界には「北京で芸を学び、天津(てんしん)でチェックを受け、上海(しゃんはい)で有名になる」という言葉があった。

京劇の初来日公演は1919年で、女形の梅蘭芳(メイランファン)らが来日。京劇の孫悟空の初来日公演は1926年で、名優の鄭法祥(てい・ほうしょう 1892-1965)による。

★『西遊記(さいゆうき)』

タイトルは「西への旅の記録」の意。ここでは「遊戯(ゆうぎ)」の「遊」ではなく、「遊説(ゆうぜい)」「遊行(ゆぎょう)」の「遊」。

中国の明(みん)の時代(1368年-1644年)に書かれた長編の小説。作者は呉承恩(ごしょうおん)とされるが真相は不明。唐の時代、三蔵法師こと玄奘(げんじょう)が、弟子である孫悟空・猪八戒(ちよはっかい)・沙悟浄(さごじょう)とともに天竺(てんじく。現在のインド)まで旅をして、仏典(いわゆる「お経」)を得て帰る物語と、その前日譚(ぜんじつたん)の物語を描く。

★日本人と孫悟空の物語

日本でも『西遊記』の物語は江戸時代(1603年-1867年)中期から人気を得た。各種の翻訳をはじめ、小説、絵、芝居、映画、テレビドラマ、漫画、アニメ、ゲームなど、さまざまな翻案(ほんあん)作品や派生作品が作られてきた。

昭和15年のレビュー映画「エノケンの孫悟空」、昭和42年(1967)の

テレビまんが「悟空の大冒険」、昭和 52 年(1977)の人形劇「ヤンマーファミリーアワー 飛べ!孫悟空」、昭和 53 年(1978)のテレビドラマ「西遊記」(出演は堺正章、夏目雅子、西田敏行らの各氏)、等々。

『西遊記』の世界観を採り入れた派生作品としては、特撮ドラマ「キャプテンウルトラ」やテレビアニメ「宇宙戦艦ヤマト」、漫画「ドラゴンボール」等が有名。

★中国の古典小説『西遊記』

児童文学ではなく、大人むけの娯楽小説だった。

三蔵法師は男性。日本では三蔵法師を女優が演ずることもある。

猪八戒は中国在来種の黒ブタ。昔の中国に西洋種の白ブタはいない。

沙悟浄はカッパではない。カッパは日本の妖怪で中国にはいない。

★「京劇 西遊記 2019 ～旅のはじまり」 主な登場人物

○太宗(たいそう。李世民=り・せいみん) 598 年 - 649 年 在位 626 年 - 649 年 唐王朝の第二代皇帝。

○三蔵法師 玄奘 602 年 - 664 年 唐の時代の訳経僧(やつきょうそう)。「般若心経(はんにやしんぎょう)」など、多数の仏典を梵語(ぼんご。サンスクリット語)などから漢訳した。

○観音菩薩(かんのんぼさつ) 観世音菩薩、観自在菩薩とも呼ばれる。

○劉伯欽(りゅう・はくきん) 三蔵法師をトラから助ける獵師。

○孫悟空 モデルは、中国内陸部に生息するキンシコウ(金系猴)や、インドや東南アジアの猿の神様「ハヌマーン」など、諸説がある。

○小白龍 龍王の子。罰を受けて地上におとされ「水族」の長となる。「玉龍」とも呼ばれる。

★孫悟空の名前の移り変わり

○石猴(せっこう。いしざる)…東の海の島で石から生まれたときの呼び名。

○美猴王(びこうおう)…美しい猿の王様、の意。花果山の猿山のあるじになってからの呼び名。

○孫悟空…仙人(せんじん)の須菩提祖師(すぼだいそし)に弟子入りした

ときにつけてもらった「法号(ほうごう)」。「孫」は、サルのことを漢文で「胡孫」とか「獼猴」と呼んだことから。

○齊天大聖(せいてんたいせい)…「天にひとしき大いなる聖」つまり「天と同格の神様」の意の自称。中国の道教で孫悟空を神としてまつときの名前でもある。

★「京劇 西遊記 2019 ～旅のはじまり」

中国語の原タイトルは「五百年後孫悟空」。以下、それ以前の物語を説明する。

その昔、花果山(かかざん)の石から生まれた石猴こと美猴王は、須菩提祖師のもとで修行し、変身の術や、空を自在に飛ぶ筋斗雲(きんとうん)の法などを身につけた。その後、孫悟空は海のなかの龍宮(りゅうぐう)におしかけて龍王の宝物である「如意金箍棒」(にいいきんこぼう。「如意棒」とも)を奪って自分の武器にしたり、「あの世」で暴れて自分とサルの仲間の寿命を強引に伸ばしたり、やりたい放題だった。

天帝(てんてい)をはじめとする天宮(てんきゅう)の神々は、暴れん坊の孫悟空を教化(きょうか)しておとなしくさせようとした。神々は孫悟空をだまして天に招き、「弼馬温(ひつばおん)」という官職を与えた。弼馬温は、馬たちの世話をする「お馬番」で、官位すらない低い身分だった。真相に気づいた孫悟空は怒って地上にもどり、「齊天大聖」と名乗った。そして天宮に攻め込み、さんざん暴れ回った。

困った天帝は、西の釈迦如来(しゃかによらい。お釈迦様)に助けを求めた。釈迦如来は孫悟空に「わしと勝負しよう。わしの手のひらの中から外に出られるか」と言った。孫悟空はお釈迦様の手のひらの中から外に出られず、勝負に負け、五行山(ごぎょうざん)のもとに押し込められた。

五百年のち、そこへ三蔵法師が通りかかり……

★京劇の舞台の約束ごと

○鞭について。役者が手に鞭を持つと馬に乗っていることを表す。鞭の色は馬の毛の色。

○旗を使って波を表す。

○舞台上の位置関係は、客席から見てむかって右側が上座。役者は、舞

台の下手(しもて。客席から見て左側)から登場し、上手(かみて)に引込むことが多い。

○楽隊は、舞台の上手の袖幕の中にいる。

○衣装やかぶり物について。

太宗皇帝がかぶるのは「九龍冠」。服が黄色なのは、昔の中国では黄色は帝王専用の高貴な色だったから。

三蔵法師は、初登場時は正装しており、頭に「五仏冠」、体には赤くて豪華な「錦瀾袈裟(きんらんけさ)」をまとっている。旅先では動きやすい僧侶の平服を着る。

孫悟空の頭の輪の名前は「緊箍児(きんこじ)」。三蔵法師が、緊箍児をしめつけるためにとなえる呪文は「緊箍呪(きんこじゅ)」。

小白龍がかぶっているのは、キジの長いしっぽを2本つけた「雉尾冠(ちびかん)」で、京劇では武将や司令官、異民族の首長などがかぶる。

観音菩薩が手にもっているのは「払子(ほつす)」。京劇では、殺生戒(せつしょうかい)を守る神仙(しんせん)や、聖職者(せいしよくしゃ)が持つ。

★孫悟空を演ずる巖慶谷さん(イエン・チンゲー/げん・けいこく)

今回の来日公演では、構成・演出・主演を担当。

1970年、上海生まれ。中国の「国家一级俳優」に認定されている。専門は京劇の「丑」(ちゅう。道化役)。

日本との縁も深い。上海京劇院の来日公演には1989年から何度も参加している。日本に留学して大蔵流狂言を学んだこともある。サントリーのウーロン茶のCM(1993年。吉田拓郎氏の歌「結婚しようよ」の中国語訳の歌にあわせて結婚式をあげるシーン)にも出演。名優・鄭法祥の至芸「鄭派悟空」を継承し、京劇の孫悟空の新境地を開拓している。

以上